

# 文化財通信くまもと

第4号

1992.3

熊本県教育委員会



宮の前遺跡大型甕棺（第92号）

## はじめに

埋蔵文化財の発掘調査は、開発などでやむをえず遺跡が破壊される場合に、事前に記録を残すためにおこなっています。最近では開発ラッシュとともに発掘調査の件数も飛躍的に増加しています。

第4号では、文化財調査第1係（農業基盤整備事業関連）が行った調査のうち主要なものである、宮の前遺跡（菊水町）、夏女遺跡（錦町）、神の元1号墳（不知火町）、堂園遺跡（須恵村）、柏木谷遺跡（久木野村）について取り上げます。調査地も県の全域にわたり、また対象も甕棺墓、集落、古墳など多彩です。

長小田宮の前遺跡

所在地	玉名郡菊水町大字長小田字宮の前
調査面積	約5,400m <sup>2</sup>
調査期間	平成2年4月～6月、10月～平成3年10月

長小田宮の前遺跡は、菊池川の右岸の氾濫原の微高地にある標高12mほどの遺跡です。調査は県営圃場整備事業にともなっておこなわれ、その結果縄文時代から中世・近世までの、たくさんの遺構遺物が出てきました。時代ごとにその成果をまとめてみましょう。

### 縄文時代

前期と晩期の土器、そして石器が見つかりました。前期は轟式、晩期は夜臼式とよばれる土器で、石器にはやじりや網のおもり、それにたくさんの石片がありました。このことから、約6000年前に当地に入びとが住み始め、縄文時代のおわりまで断続的に生活の場になっていたことがわかりました。また、石のやじりやおもりが見つかったことで、その当時、狩りや魚とりが盛んにおこなわれていたことがわかります。

### 弥生時代

この時代は古い方から前期・中期・後期に分けられますが、遺跡からは中期と後期の遺構や遺物が出てきました。

中期の遺構には、竪穴式住居跡と甕棺墓や木棺墓がありました。竪穴式住居跡が見つかった場所と甕棺や木棺がみつかった場所とは、直線距離で約100mほど離れており、当時墓場は、集落（ムラ）からやや離れた場所につくられたいたようです。

竪穴式住居跡は11軒分見つかりました。その形には丸と四角、そして長四角があります。恐らく丸が古く、四角や長四角のものがやや新しいのでしょう。住居跡の中からは、甕や壺、高壙などの土器、ドングリを磨り潰すための磨石がでてきました。当時、稲作りが専らの仕事のように思えますが、決してそれだけではありません。磨石のようにドングリ調理用の道具があったり、ドングリ貯蔵用の穴がでたりで、当時の食卓にドングリ料理も並んでいたことが想像されます。また川に近いということから、川魚も食卓を賑わしていたに違いありません。

甕棺や木棺は111基ほど見つかりました。特に甕棺は92基近くありました。これほどの数の甕棺が調査された遺跡は県下ではあまりありませんので、貴重な遺跡となることでしょう。



甕棺群調査風景



中型合口甕棺(第91号)

後期では、竪穴式住居跡1軒を調査しました。家が1軒ということはありませんので、調査区外にたくさんの住居跡が眠っているものと想像されます。住居跡は長四角で、柱は2本、真ん中に炉がありました。また、住居跡の両端には床を一段高くした「ベッド状造構」が設けられていきました。この当時の標準的な家屋です。ただ残念なことに、墓は発見されませんでした。

#### 古墳時代

6世紀の後半から7世紀の竪穴式住居跡が発見されました。6世紀のもの2軒、7世紀のもの8軒（内1軒は不明）の合計10軒（1軒不明）です。いずれの住居跡にもカマドが付けられていました。この中で、6世紀の住居跡のカマドは、県下でも古い方に入るものでした。なお、遺跡の近くには久井原高野横穴があり、このムラの人びとの墓地と考えられます。この竪穴式住居の他、6世紀代に掘られた溝も出てきました。幅4m、深さ2.5mですから、とても大きな溝です。恐らく、用排水用の溝でしょうが、近くの水田につづいているものと考えられます。住居跡や溝の中からは、米を蒸らすための「こしき」・甕・盛り用の环、そして鉄製のやじりなどが見つかりました。

#### 平安時代

平安時代の竪穴式住居跡も9軒見つかりました。どの住居跡にもカマドが付いていました。しかし完全な形のものは無く、すべて壊れた状態で発見されています。年代は、9世紀代でした。出てきた遺物には、こしき・甕・环などがありました。あまりたくさんは出ていません。なお9世紀代に掘られた溝はこの頃一気に埋められています。

#### 中世・近世

室町時代の溝、水溜め用に穴、墓、そして当時の生活用品（すり鉢・石鍋・中国製の陶磁器・網のおもり・羽子板などの木製品）が出てきました。溝や水溜めがありますので恐らく、この周辺は村外れの水田に近い場所だったと想像できます。ですから、村の中心部はもっと北側にあったものと思われます。この他、江戸時代の溝、井戸、そして苗代の跡も発見されました。



第15号木棺墓



弥生中期竪穴式住居跡



カマド付竪穴式住居跡(6世紀後半)



江戸時代井戸跡

[夏女遺跡]  
(第2次)

所在地 球磨郡錦町大字木上字夏女ほか  
調査面積 約1,400m<sup>2</sup>  
調査期間 平成2年7月～11月（第2次調査）

平成元年度の調査成果は第2号でお知らせしましたが、第4号では平成2年度におこなった調査の結果を報告します。前年度に引き続き貴重な発見がありました。弥生時代の遺跡からの出土は非常に珍しい青銅鏡は、前年度に引き続き2枚目の発見ですし、全国でも数例目の銅鏡（青銅製の腕輪）の出土、南九州でしか確認されていない花弁型（はなびら型）住居跡、集落を外敵からまもる溝の跡など、どれをとっても貴重な弥生時代後期の遺跡であることをものがたっています。

#### 花弁型住居跡

花弁型住居跡は南九州独特のはなびら型をした、弥生時代後期の住居跡です。

この遺跡からは1軒だけですが調査区のまんなかから発見されました。住居跡の西側だけに4枚のでっぱりをもっており、その部分がいちだん高くなっています。この住居跡の中にはおびただしい量の土器が捨てられており、甕・壺・免田式土器や石器をふくんでいました。

条溝（集落を外敵からまもるために掘られた溝）

調査区の東端に北西から南東に横切るかたちで逆台形のかたちに深さ約80cm・幅約3mで掘られました。調査区が道路の幅のためどうのびていくかわかりませんが、この溝をおっかけていくと集落の規模がわかります。

#### 青銅鏡

この遺跡からの出土は2例目で、同一遺跡からの2面の出土は県下では初めてです。

たまたま調査区をスコップを使って拡張中偶然に発見されました。おそらく住居跡内であろうとおもわれます。大きさ直径約7cmで、鏡の裏に花びらの模様がある内行花文鏡とよばれるものです。県下でも10数例しか発見例がなく、同じ遺跡で2枚も出土したことには非常に驚か



57号住居跡(花弁型)遺物出土状況



第54号住居跡遺物出土状況



集落(ムラ)を巡る溝(条溝)

されます。

### 銅鏡

今回の出土品の中で特に注目されるのは、住居跡から青銅製のプレスレット（銅鏡）が発見されたことです。この銅鏡はとても上質の青銅でできており、朝鮮半島で作られたのを日本に輸入したものと思われます。弥生時代後期の住居跡からの出土は、全国で2～3例しか確認されていません。



青銅鏡出土状況



銅鏡出土状況

### 〈質問コーナー〉

## 小判はでたな？

一発掘調査の現場などでよく耳にする  
素朴な疑問にお答えします

### 質問1 小判はでたな？

調査現場でいちばんよくきかれる質問ですが、残念ながら熊本の調査で小判がでたという話は聞きません。というもの、小判がでる可能性があるのは江戸時代の遺跡ですが、その年代は最大にさかのぼっても今から約400年ほど前です。しかし私たちのおこなう発掘調査のほとんどは、弥生時代（約1700年～約2300年前）や、櫛文時代（約1万年～約2300年前）、旧石器時代（約1万年以前）など気の遠くなるような古い時代が対象なのです。今後江戸時代のような「新しい」遺跡の調査が増えれば小判が発見されることがあるかもしれません。

### 質問2 遺跡のある場所がどうしてわかるのですか？

遺跡は古墳などを除いて、普通は地面の下に隠れています。しかし、地面に埋もれている土器や石器も、田畑の耕作などのため、その一部が地表に表れていることもあります。私たちは地面に落ちている土器のカケラなどを手掛かりにして遺跡の有無や年代を知り、さらに部分的に試し掘りをすることで、遺跡を確かめています。雨上がりの日など皆さんもきっと、土器のカケラを見つけることができるはずです。

### 質問3 住居跡などの掘り込みがよくわかりますね？

自然に堆積した地層と、人間が掘り込んだ跡に埋まった土では、色やかたさが微妙に異なります。一定の深さまで表土を剥ぎ取り、表面をきれいに削ると右の写真のように色の違いがよく分かります。このうち黒く見える部分が、昔の人が掘り込んで作った住居の跡というわけです。



表土の下に住居跡の輪郭があらわされた状態

## [神の元 1 号 墳]

所 在 地 不知火町大字高良 6 1 8 番地  
調査面積 約 2 2 0 m<sup>2</sup>  
調査期間 平成 3 年 3 月 ~ 7 月

神の元 1 号 墳は、高良丘陵の支丘陵の南側の斜面（標高約23m）に位置していた古墳です。調査前は石室（死者を安置する部屋）の石のうち、奥壁に 2 個と左・右壁各 1 個の腰石、ならびに羨道（石室に通じる通路）の立石 1 個の、合計 5 個が築造時の位置を保っていたのみで、あまり残存状況の良い古墳ではありませんでした。農道の建設とともに事前に発掘調査をおこない、調査後不知火町の町民グラウンドの敷地内に移築しました。

### 古墳の構造や規模

古墳はひどく削られていたため、墳丘の規模を確かに示す遺構や遺物は見つかりませんでしたが、地形から判断すると、もとは直径約10m程度の円墳であったと思われます。

内部は横穴式石室で、規模は東西約 172 cm、奥行き約 255 cm の長方形、そのなかに死者を安置するため三つの区画（奥床）を作っています。

また向かって奥と右の区画には、小石を敷きつめてありました。

### 出土遺物と築造年代

盗掘を受けていたため、遺物はほとんど残っていませんでしたが、奥の区画から金環 1 点・ガラス小玉 2 点、右区画から少し浮いた状態で土師器小壺 1 点、通路から須恵器 3 点・土師器 1 点などが出土しました。

古墳の作られた年代は、古墳の構造や出土した土器の形などから推定しますが、神の元 1 号 墳は、出土した須恵器によって 7 世紀初頭（今から約1400年ほど前）頃に作られたものと考えられています。



調査前の状況



完掘状況



須恵器出土状態

[**堂園遺跡**]

所在地	球磨郡須恵村大字覚井字堂園
調査面積	約2,500m <sup>2</sup>
調査期間	平成2年10月～平成3年1月

堂園遺跡では、縄文時代の初め頃と終わり頃の土器や石器、古墳時代の竪穴式住居跡、穴、平安時代のお墓や平安時代から鎌倉時代の道と建物の跡が見つかっています。

**枕のついたお墓発見**

調査区の北側から、長さ175cm、幅60cmの南北に掘られた穴が見つかりました。穴の北側には人の頭を乗せるくらいの高まりがあり、東側には、日本製の素焼きの皿2枚、椀1個、越州窯系の青磁（中国製の焼き物）が置かれています。骨は残っていませんでしたが、穴の大きさや北側に枕があること、焼き物の置かれ方などから、平安時代の中頃（10世紀）のお墓であろうと思われます。



1号土壙墓（全体）

越州窯系の青磁は、中国からの輸入品で当時としては大変高価なものだったので、埋葬された人は、この地方でかなり力を持っていた人ではないかと考えています。



1号土壙出土遺物

[**柏木谷遺跡**]

所在地	阿蘇郡久木野村大字久石字柏木谷
調査面積	約10,000m <sup>2</sup>
調査期間	平成3年1月～12月

遺跡は、南郷谷の久木野村にあり、外輪山から北側にいくつも伸びる舌状の丘陵の先端部（標高約410m）に位置しています。調査では縄文時代から近世にいたる幅広い時代の遺構や遺物を確認しています。

- ・縄文時代 前期・晚期の土器・石器
- ・弥生時代 後期の住居跡（19棟）
- ・古墳時代 方形周溝墓（12基）、円形周溝墓（9基）、円墳（1基）、単独石棺
- ・その他 掘立柱建物（1棟）、土壙墓（中世）、溝遺構（近世）



空中写真遺跡全体（上空より）

## これまでの調査

久木野村では、ここ数年間にわたる発掘調査の結果、旧石器時代（およそ1万年前以前）の遺物が確認されているほか、縄文・弥生時代の遺物や遺構も見つかっています。このうち最も多く確認されているのが古墳時代の住居跡です。このことは、農業の発展とともにこの地方が飛躍的に生産力が豊かになったことを物語っています。ただこれらの集落跡に対応する墓の存在はこれまで不明でしたが、今回の調査で初めて確認されました。

### 県内最大級の円墳発見

今回の調査で見つかったのは、方形周溝墓（溝で周囲を囲んだ四角形の墓）、円形周溝墓（溝で周囲を囲んだ円形の墓）を中心とする墳墓群です。溝の中や中央の主体部（遺体を納めた場所）からは、たくさんの須恵器や土師器のほか、鉄鏃などの鉄製品なども出土しています。さらに調査区南端には、円墳が1基見つかりました。外径は約34.4mあり、県内でもかなり規模の大きいものです。これはこの地域でかなり強い権力をもった人物の墓と考えられます。

このように形態の異なる墳墓が集中的に発見されたことは、古墳時代の墓の変遷や阿蘇南郷谷地方の古代史の研究を飛躍的にすめることになりそうです。



方形周溝墓群(北より)



円 墳(上空より)



第6号住居跡出土遺物

### 〈編集後記〉

いそがしい調査の合間をぬってやっと原稿が集まり、第4号をお届けすることができました。埋蔵文化財の発掘調査は、ここに紹介した以外にも県内各地で行われています。発掘調査というと、固苦しいイメージがありますが、地元の方の参加と協力を得て楽しく和気あいあいと調査をむこなっています。皆さんの家の近くで調査が行われる際には、調査員に気軽に声をかけて下さい。道筋に関して色々と説明ができると思います。



第4号  
平成4年3月31日発行  
発行 熊本県教育文化課  
熊本市水前寺6-18-1  
電話 096-383-1111 内6715・6716  
印刷 株式会社ハタノ

03 教委 文教  
③ 003-1